

## 夏秋イチゴ養液栽培における 有機質培地の利用

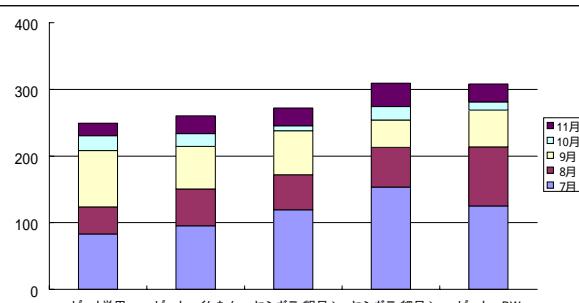
夏秋イチゴ養液栽培の培地は、ピートモスとロックウール粒状綿を混合したものが用いられています。ロックウールは分解され難い培地であるため、使用後の処理に困っています。ロックウールを使用しない有機質培地としてヤシガラ培地の利用が可能であり、ヤシガラ培地に替えることで、土壤へのすき込み処理が容易になります。



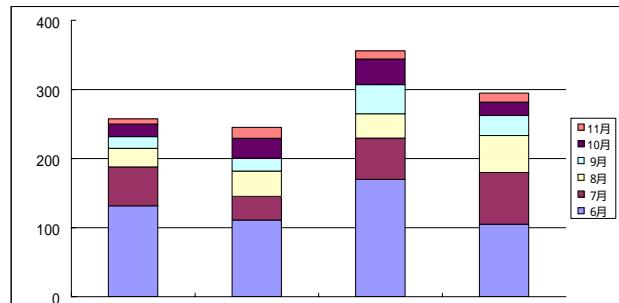
夏秋イチゴ産地（標高 900 m）

夏秋イチゴの養液栽培における有機質培地は、ヤシガラ培地（細目）が適しており、ピートモスとロックウール混合培地（3:1）より収量が増加しました（図1）。

ヤシガラ培地は、培地を連続使用しても、ピートモスとロックウール混合培地より優れています。（図2）。



注 試験場所 池田町西山（標高830m）品種：スイートチャーミー（四季成り性品種）  
定植：1999年4月20日 栽培密度：8株/ベッド（幅30cm × 長さ90cm × 深さ10cm）



注 試験場所 池田町西山（標高830m）品種：スイートチャーミー（四季成り性品種）  
定植：2000年3月24日 栽培密度：8株/ベッド（幅30cm × 長さ90cm × 深さ10cm）



ヤシガラ培地



ヤシガラ培地での栽培状況

### 問い合わせ先

徳島県立農林水産総合技術支援センター  
TEL (0883) 72-0239

農業研究所

中山間担当

FAX (0883) 72-6868

<http://www.green.pref.tokushima.jp/nogyo>